

環境保健夏季大学 分科会報告

重点メニューと公衛協組織の課題を共有

環境保健夏季大学のねらいである「活動を盛り上げるために必要な知識や方法論を学び、体験交流を通して、今後の環境保健・公衆衛生の向上と活性化を図る」ために、参加者相互の意見交換・情報交換を積極的に行う「分科会」を実施しました。分科会のテーマは、1日目に「全県共通事業重点メニュー」を、2日目に「これからの公衛協に必要な活動」を掲げ、少人数のグループに分かれて意見交換を行いました。

「全県共通事業重点メニュー」

初日の「全県共通事業重点メニュー」では、現在実施している5つの重点メニュー万人の工コチェック事業、公衛協発・ひろしま美化大作戦、1万人の食チェック事業、公衛協発ウォーキング事業、「がん検診へ行こうよ!」キャンペーン事業)の内容について確認した後、提示されたキーワードについて「実践事例」「課題とその解決方法」などを

「これからの公衛協に必要な活動」

2日目の「これからの公衛協に必要な活動」では、まず始めに参加者

が地元公衛協の「組織力診断」を行いました。「組織力診断」とは、それぞれの組織の「ひと・かね」について「リーダー」「システム」「メニュー」「財源」の4つの柱で現状を自己診断するというものです。今回は、ひとに関わる「リーダー」と、もの(仕組み)に関わる「システム」について、自己診断を行いました。チェックする項目によっては、コミュニティレベルでの活動を把握できていないものがあり、自己診断に苦慮した参加者も多く

自由語り合いました。約1時間の短い時間でしたが、参加者からは「他団体の活動方法や実態を知ることができた」「来年度の運営に役立つ」「参加者を広げる方法等、思いつかない意見が出た」などの声が続出し、活発に意見交換が行われた様子が伺えました。

「地域」の課題が理解できる」「自分の知識不足を感じた」「組織には何か必要か、自分の公衛協に何が不足しているのかを知ることができた」などの声が続出し、現状を把握することができたようでした。

その後、組織力診断の結果を受け、各公衛協が直面している課題やその解決方法、アイデアなどを共有するために、「人に関すること」「システムに関すること」とのテーマ別に少人数のグループで意見交換を行いました。「地区」の活動を聞き、参考になった「地域」によっていろいろ悩み、問題があることが改めてわかった「いろいろ意見を見聞き中、ヒントが見つかった」など、意見交換から多くのヒントが得られたようでした。

今年度も、意見交換を活発に行うための仕掛けとして、「昨年度から活用している「えんたくん」が大活躍!「えんたくん」はグループワークを促進するツールで、

参加者が円形に座り、膝の上に直径1メートルのダンボール板を置いてテーブル代わりに使うというものです。話し合うのに程よい距離感を演出でき、ダンボールの上に敷いた紙にメモを書きます。この夏季大学で「えんたくん」を利用した意見交換が気に入った、購入した公衛協があるほど、「えんたくん」を使った意見交換が浸透しています。

今回の分科会で交わされた意見は、えんたくんの記録用紙を参考に、代表者会議で報告し、今後の公衛協活動の支援に役立てます。



えんたくんを囲んでテーマについて意見交換(上)、グループで出した意見や感想を発表する参加者(中)、自己診断のイメージ図(レーダーチャート)(下)

今年度も、意見交換を活発に行うための仕掛けとして、「昨年度から活用している「えんたくん」が大活躍!「えんたくん」はグループワークを促進するツールで、

参加者が円形に座り、膝の上に直径1メートルのダンボール板を置いてテーブル代わりに使うというものです。話し合うのに程よい距離感を演出でき、ダンボールの上に敷いた紙にメモを書きます。この夏季大学で「えんたくん」を利用した意見交換が気に入った、購入した公衛協があるほど、「えんたくん」を使った意見交換が浸透しています。

今回の分科会で交わされた意見は、えんたくんの記録用紙を参考に、代表者会議で報告し、今後の公衛協活動の支援に役立てます。

今回の分科会で交わされた意見は、えんたくんの記録用紙を参考に、代表者会議で報告し、今後の公衛協活動の支援に役立てます。

今回の分科会で交わされた意見は、えんたくんの記録用紙を参考に、代表者会議で報告し、今後の公衛協活動の支援に役立てます。

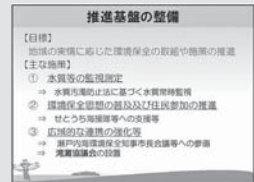
第56回環境保健夏季大学 情報提供

①瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画について

平成27年2月に瀬戸内海環境保全基本計画が変更されたことに伴い、平成28年10月に「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」を変更。平成28年度から37年度を計画期間とし「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」を基本理念に、多様な主体により「里海づくりが継続されている」ことを目指します。

具体的には、多様な生物の生息・生育の場の増加と質の向上を目的とした藻場や干潟の造成、計画的な海ごみの回収及び発生抑制対策、自主的かつ継続的な海岸等の清掃活動やエコツーリズムなどの推進、海底堆積物除去や水産資源の適切な管理などです。

また、地域の課題に多様な主体が連携して取り組むため、平成29年4月、広島湾、安芸灘・燧灘、備後灘・備讃瀬戸の3区分に「湾灘協議会」を設置。沿岸住民や公衛協、漁業者、市町、県、国などで構成し、情報共有や意見交換等を通じて、具体的な改善策を検討していきます。協議会構成員である公衛協の積極的な参画が呼びかけられました。



広島県環境保全課 事業調整員 木村 伸一 様

②広島県のがん対策 ~6つの柱で日本一のがん対策~

広島県における年間死亡者数の約3割を占める「がん」。平成25年3月に、平成25年度から29年度を計画期間とする「広島県がん対策推進計画(第2次)」を策定し、たばこ対策の強化やがん検診の受診率向上、がん情報ポータルサイト「広島がんネット」による情報提供などに取り組んでいます。

たばこについては、健康被害が問題となっている「受動喫煙」防止対策を推進するため、平成28年4月から、広島県がん対策推進条例により、施設管理者がとるべき措置を義務化し、公園等の利用者には喫煙しないことなどを努力義務化しました。

また、がん検診受診率向上に向けて、「がん検診へ行こうよキャンペーン」による啓発、市町が行う検診の受診勧奨に係る経費の支援や勧奨用資料の無料提供、「ひろしまがんネット」による検診情報の広報などを進めています。「がん対策日本一」に向けて、連携しながら対策に取り組ましようと呼びかけられました。



広島県がん対策課 主幹 佐矢野 忍 様

○平成29年度の全県共通重点メニュー

事業名	内容
1万人の工コチェック事業	県内の公衆衛生推進協議会や公衆衛生推進委員会を中心に、家庭のエネルギー削減運動を展開。その一歩として推進委員が家庭の省エネに挑戦し、削減効果を数値的に把握・評価(見える化)し、脱温暖化活動の基盤づくりを目指す。実践率50%を目標とする。
公衛協発ひろしま美化大作戦	地域清掃・美化や水質改善・水質保全、里地・里山づくりなど、地域で展開する環境保全活動の継続と促進、活動実績の集積とPRを行うことで、次世代にすばらしい環境を残していく。集積した活動記録は広島県(湾灘協議会)に報告するなど、広く活動をPRしていく。
1万人の食チェック事業	県内の公衆衛生推進委員会が主体となり、日々の食事のバランスチェック運動を展開。強化期間と食育の日(毎月19日)に定期的にチェックすることで、健康づくりと食生活の改善に繋げる。国の重点課題「健康寿命の延伸につながる食育の推進」に係る取り組み。
公衛協発ウォーキング事業	「環境」と「健康」の視点を持ったウォーキング事業を実施。市・町民の健康づくりの動機付け・習慣づけにつながるよう、公衛協が主催して行う。県の計画「健康ひろしま21」の目標「ライフステージに応じた運動習慣の定着」を図る取り組みとして展開。
「がん検診へ行こうよ!」キャンペーン事業	「第2次広島県がん対策推進計画」の「あなたが取り組む予防と健診」に基づき、公衆衛生推進協議会が中心となつてがん検診の受診率向上を目的とした【受診勧奨キャンペーン】を全県的に展開する。